

経営現場からの便り

千思万考

第十二回

認知症の人を支える 当法人の取り組み

◎田邊恒一 有限会社ウエルフェア代表取締役

0歳から90歳代までが同じ時間を共有

当法人は千葉県習志野市で介護福祉事業等を展開している。平成15年に民家を改築した「グループホーム秋津」を開設し、平成16年には「グループホーム谷津苑」と認知症対応型デイサービス「デイサービスセンター秋津」を立ち上げた。また、介護スタッフ確保の目的等により事業所内託児施設を数年運営してきたが、平成22年に習志野市民間保育施設入所児童助成金の対象施設として「保育ルームロゼッタ」を開設し、地域の児童やスタッフの子どもたちへの保育を提供している。そして、平成27年の居宅支援事業所「ケアプラン秋津」の開設により地域で暮らしている認知症の人とその家族の支援に今までよりもさらに深く携われるようになった。

事業所には園児、スタッフ、ホームおよびデイの利用者の0歳から90歳代の多世代が同じ時間を共有しており、そこから生まれるふれあいを大切にしながら取り組みを続けている。

また、私は認知症介護研究・研修東京センターでの認知症介護指導者養成研修を平成21年度に修了し、現在



認知症カフェ（袖園カフェ）

は千葉県認知症介護指導者として認知症介護実践者研修をはじめとした各種研修会等での講義・演習等を担当している。

グループホームをはじめとする認知症の人への日々の実践の積み重ねや認知症介護指導者に求められる役割の中に、「地域に暮らす認知症の人への無理解による偏見や差別により虐待などの人権侵害を受けることなく安心して暮らすことができる地域とするために、地域の社会資源の発掘や住民・行政・医療・保健・福祉関係者が有機的に連携したネットワーク構築の推進を図り、また認知症の理解や認知症介護の正しい知識の普及啓発など情報発信に努める」¹⁾とある。当法人は、認知症の人が住み慣れたまちで安心して楽しく暮らしていけるための取り組みを続けている。この機会を通じてその活動を紹介したい。

認知症サポーター養成講座

認知症サポーター養成講座とは、認知症の人とその家族が安心して暮らせるよう、認知症を正しく理解し、どのようなサポートができるかなどについて学ぶ講座である。講座を受講した認知症サポーターは平成27年9月現在、全国で約667万人いる。

当法人には習志野市キャラバンメイト（認知症サポーター養成講座の講師役）が私を含め3名在籍しており、数年前からさまざまな認知症サポーター養成講座の開催をとおして地域への認知症への普及啓発に努めている。今までの開催および講師実績は次のとおりである。市主催講座・小学校・中学校・高校・図書館・町内会・社内研修・認知症カフェ内等。

習志野市認知症メモリーウォーク

認知症メモリーウォークとは、認知症に対する偏見を

取り払い、理解を深めるために行う啓発活動(パレード)である。世界各国で実施され、日本でも千葉県で平成19年に全国で初めて開催された。私自身千葉市で行われたこのメモリーウォークに参加する中で、「当法人がある習志野市でも開催したい」と強く感じた。認知症の人と家族の会千葉県支部の世話人の方からの勧めもあり、習志野市内の地域包括支援センター、習志野市キャラバンメイト、認知症の人と家族の会千葉県支部等と「習志野市認知症メモリーウォーク実行委員会」を立ち上げ、平成25年に習志野市内で初のメモリーウォークを開催する運びとなり、毎年行っている。

第1回目は市内の大久保地域にある商店街内でのパレードを主に開催した。第2回目からは毎年夏に市民祭りとして行われている「習志野きらっと祭り」にてパレード参加及びお祭り会場にて認知症啓発ブースを設置した。平成27年夏に行われた第3回目からは市内のグループホームがメモリーウォーク実行委員会に参加し、認知症啓発ブースに約500名、メモリーウォークには約120名の一般市民や認知症当事者が参加した。

このように当法人では開催当初よりメモリーウォーク実行委員会の実行委員長ならびに事務局長等として携わっており、地域への認知症への普及啓発のみならず、認知症に携わる多職種への連携を推進する取組みを続けている。

認知症カフェ(袖団カフェ)

これらの取組みを続けていく中で「市内で認知症カフェを開催したい!」という考えが芽生えたものの、なかなか行動に移せなかった。そうした矢先、市原市の認知症カフェかさねに見学に行った。カフェを主催する方の「やればいいじゃん! 始めてから分かることもあるよ」という言葉が背中を押し、平成26年12月より市内の高齢化が著しい袖ヶ浦団地内の集会所を借りて月1回(毎月第3日曜日の10時から)開催している。

袖団カフェ実行委員会を主催者として袖ヶ浦団地自治会、社会福祉協議会袖ヶ浦支部ならびに習志野市医師会に協賛をいただき、本年より当法人を主催者として従前どおり活動する予定である。カフェには医師や看護師、薬剤師、ケアマネジャー、介護職、司法書士、市職員、

習志野市認知症メモリーウォーク



認知症サポーター養成講座では介護劇を行った

民生委員、介護相談員、認知症の人と家族の会会員、保育士等の多職種が参加しており、地域住民、認知症の人やその家族等とお茶やコーヒーを飲みながら気軽に介護や認知症等の相談に応じることのできる場所を提供している。

カフェ開催時の参加者は毎回30名程度であり、開所から約1年経った今は認知症の人やその家族の参加が増えており、認知症カフェの意義や役割を果たすことができていると実感している。また、他のカフェとの交流も積極的に行っており、認知症カフェがさまざまな地域に誕生するお手伝いもできると考えている。

ここで紹介した取組みができるのは、認知症の人やその家族等との関わりの中で培った多職種との「顔の見える関係」が構築できたことにある。そして、日々認知症の人の支援に悪戦苦闘しながら真摯に向き合っている「当法人スタッフ」の存在も大きい。今後もこの2つを大切にしながら活動していきたいと感じている。

認知症になっても「心」は生きている

「認知症になっても『心』は生きています。認知症の人の『その人らしさ』を大切にするケアをめざしています。そして、認知症の人が『尊厳』をもって共に暮らしてゆける社会の創造をめざします」という認知症介護研究・研修センターの理念にもあるように、認知症の人やその家族が住み慣れた地域で安心して楽しく暮らしていけるような地域づくりをさらに推進していきたいと考えている。

引用文献

1) 全国認知症介護指導者ネットワークより

たなべ・こういち ●昭和47年東京都生まれの千葉県育ち。不動産業を経て介護業界に転身。介護福祉士、介護支援専門員、認知症ケア専門士、千葉県認知症介護指導者。趣味は晩酌とジョギング。